

平成 18 年 6 月 29 日
会社名 株式会社ディーアンドエムホールディングス
代表者名 代表執行役共同 CEO 株本辰夫
(コード番号:6735 東証 2 部)
(問い合わせ先) 執行役 本村直之
(TEL:044-670-1111)

株式会社ディーアンドエムホールディングス
米クライスラーの 2006 年新モデル ジープ コンパス向けに
ボストン・アコースティックス製サウンド・システムを供給

株式会社ディーアンドエムホールディングス(東証2部:6735、本社:神奈川県相模原市、代表執行役共同CEO:株本 辰夫、以下D&M)は本日、米自動車部品大手のビステオン社とのパートナーシップにより、米クライスラーの2006年新モデル、ジープ コンパスに、傘下ブランドのボストン・アコースティックスのサウンド・システムが採用されたことを発表いたします。

今夏、発売になるジープ コンパスのサウンド・システムは、9つのスピーカーから構成される、パワフルで高音質なプレミアム・システムです。後部ハッチバック・ドアに備え付けられたプレミアム・オーディオ・ソリューション、“MusicGate Power®”スピーカーは、ドアを開けた際に下向きに回転させられる仕組みになっており、バーベキューや、ピクニックなど、アウトドアでも楽しめるように設計されています。

開発は、座席位置や内装に使われる素材など、ジープ コンパスの様々な社内音響特性に合わせて進められ、非常にクリアで高音質な音の再現が実現いたしました。

ボストン・アコースティックスは、ビステオンとともに、クライスラーの 2006 PTクルーザー、PTクルーザー コンバーチブル、クライスラー300C、ジープ コマンダー、ジープ グランド チェロキー、ダッジ チャージャー、ダッジ マグナム、ダッジ カリバー向けにサウンド・システムをお届けしてまいりました。今年中にジープ パトリオットへ搭載されることも決まっております。

ボストン・アコースティックスのOEM担当ヴァイス・プレジデントのマイケル・チャスは「ジープは、“ライフスタイルを豊かにしてくれる車”というものをファンに届け続けてきました。新モデルのジープ コンパスで、より進化した“ボストン・サウンド”を一緒にお楽しみいただけたらと思います。」とコメントしています。

なお、本契約による2007年3月期決算業績予想への影響はありません。

ボストン・アコースティックス社について

ボストン・アコースティックス・インクは 1979 年に設立され、高性能オーディオ機器家庭用のオーディオやビジュアル・システム、アフター・マーケット及びOEMのカー・オーディオ製品、カスタム・インストレーション用機器などを開発・生産・販売しています。性能、一貫性、価値に重きをおいた、価格的にも魅力的な製品は、広く“ボストン・サウンド”として知られています。詳細につきましては <http://www.bostonacoustics.com/> をご覧ください。

米ビステオン社について

ビステオンは世界有数の自動車部品メーカーで、自動車メーカー及びアフター・マーケット向けに空調、内装、電子機器、ライトなどの、革新的な製品やサービスを供給しています。米ミシガン州のほか、中国の上海、ドイツのケルペンなど、その拠点は世界24カ国に170箇所、従業員数は5万人に上ります。詳細につきましては <http://www.visteon.com/index.shtml> をご覧ください。

ディーアンドエムホールディングスについて

株式会社ディーアンドエムホールディングス(東証2部:6735)は、神奈川県川崎市に本社があり、傘下のブランドとしてデノン、マランツ、マッキントッシュ、ボストン・アコースティックス、スネル、D&M プロフェッショナル、リプレイ TV、エシエントを擁します。デノン、マランツ、マッキントッシュ、D&M プロフェッショナルは、ホームシアター、家庭用あるいは業務用の高級オーディオ/ビジュアル製品の製造と販売で長年に渡る経験を持ち、世界の業界をリードしています。“ボストン・サウンド”で知られる、ボストン・アコースティックスは家庭およびカー・オーディオ向け高級スピーカーのリーディング企業として、スネルは超高級スピーカー・ブランドとして知られています。リプレイ TV、エシエント・ブランドはその技術でデジタル・ホーム・エンターテインメント分野において数々の賞を獲得しています。詳細については <http://www.dm-holdings.com> をご覧下さい。

- ※ 本資料中の株式会社ディーアンドエムホールディングスおよびボストン・アコースティックスに関する記述のうち、歴史的事実に関するもの以外の記述には、同社に発生する将来の出来事または同社の業績に関する、将来予測に基づく記述が含まれています。これらの記述はあくまで予測であり、実際の出来事または業績とは大きく異なることがあることをご忠告いたします。将来予測に基づく記述には、買収企業の統合、競合や業界の状況、目標コスト削減プログラム、同社製品に対する市場の反応、技術の変化、今後確立される業界標準、同社の事業に関するその他の要因を取り巻く、いくつかのリスクや不確実性が伴います。

###